

第2 ミエサッキ (Miessakkit) 訪問

- 1 訪問日 2018年9月5日
- 2 訪問先担当者 Antti Alen氏
- 3 訪問先の概要

Miessakkit は、男性による男性のための民間のサポート機関であり、政治的・宗教的に独立した機関である。ヘルシンキだけでなく、フィンランド全土で活動しており、ロシアやバルト三国にも研修を提供するなど国際的に活動している。

目的は、男性の精神的・社会的成長のサポート、家族の交流・非暴力の促進、男性間のジェンダー平等の促進、男女間の結束・相互扶助関係の構築等である。どうすれば男性が心身ともに健康で過ごしていけるかという観点から、様々な経験を有するアドバイザーがサポートする。

スタッフは約80名、ボランティアが約20名であり、メンバーはすべて男性である。

省庁のプロジェクトに参加することや、企業からの支援金、講演料などにより、財源を確保している。

4 聴取事項

(1) 主な活動

ア サポートアンドピアツーピア活動

離婚、ドメスティック・バイオレンスなど男性の生涯に発生する問題や危機について、専門家及びボランティアの支援を受けることができる。同様の経験をした男性（ピア）とのグループセッションにより、自分の問題を分析し、解決を見出すというアプローチをとっている。フィンランド人男性は、自らの問題を隠す傾向にあるが、ピアグループ活動により、勇気と自信を得て、問題や不安を受け入れられるようになる。釣りなどの男性が参加しやすいイベントを開催することにより、敷居を低くするよう工夫している。

イ 移民男性の支援（外国人を兄弟にしよう、家族として迎え入れようという名称）

外国人の男性は社会的なサポートを受けにくい実態がある。移民男性の雇用促進、スキルアップに向けて、メンタリングの提供や語学教室などの研修を実施している。移民男性の7割がミエサッキで言語のブラッシュアップをし、就業できるようになったという実績がある。

ウ 父性についての活動（お父さんとしての活動を支援）

父親のための情報やトレーニング、専門的・社会的ネットワーク等を提供し、父親としての活動を支援する。ネウボラなどの子育てに関連する団体と密に連携している。

エ トレーニング・セミナー等による教育

トレーニング、セミナーを通じて、男性に関する調査を基にした教育を行う。男性の視点で弁護士への研修もしており、裁判官も研修に参加したことがある。

オ 政府、メディア、市民に対する啓発活動

省庁やメディア、企業へ男性の視点での情報提供することにより、男性の人生に気付きを与え、自分自身の成長や自らの環境に関心を向けさせ、社会の理解を得る。

(2) 質疑

Q：セクシュアルマイノリティもミエサッキを利用しているか。

A：ゲイ男性も利用している。ゲイカップルの離婚についてサポートしたこともある。

Q：フェミニストは仲間か。

A：フェミニストとは相反する意見が多いが、男女が平等にシェアする両親休暇など共通する意見もある。

Q：ドメスティック・バイオレンスの原因は何だと思うか。

A：男性に非があると言われる場合が多いが、ドメスティック・バイオレンスの原因は男女半々であることが証明されている。いずれにしても解決したい気持ちは同じである。

Q：女性に対してどのような協力を求めたいか。

A：若い男子生徒が学校から脱落していく問題など、男性の問題にもっと関心を持ってほしい。女性のためのプロジェクトにお金を使って数値を取るのではなく、男性と女性が両方で社会を構成しているのであるから、財源の配分を考えてほしい。

5 訪問を終えて

フィンランド人男性が自らの問題や悩みを相談しにくい傾向にあることは日本人男性と似ていると感じた。私が把握する限り、日本には同様の団体がないと思われる。様々な困難に直面した男性が孤立化せず、精神的な安定を得ることは、女性にとっても望ましいことであり、将来的に、日本でも同様の団体が設立されることが期待される。

6 参考資料

Miessakkit のホームページ <https://www.miessakit.fi/en>

(最終アクセス日 2019年3月3日)

以上
(横山佳枝)

